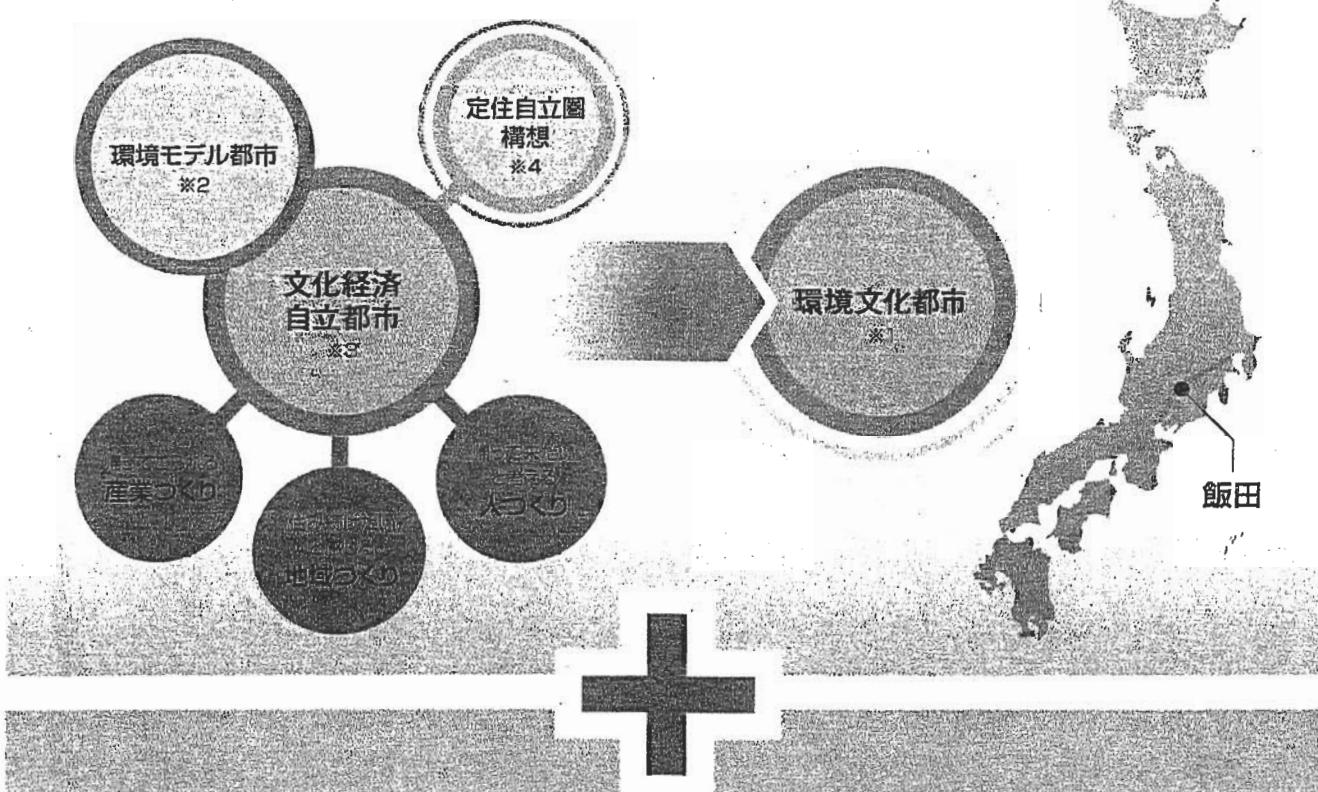


おひさまとりが育む低炭素で活力あふれる
環境モデル都市・飯田
~ Green New Deal Policy in Iida ~

環境文化都市・飯田

飯田市では、環境を人類共通の課題として認識し、「21'いいだ環境プラン」に基づき、地域ぐるみで地球環境保全活動に取り組んできました。2007年には環境文化都市宣言を行い、人も自然も輝く文化経済自立都市の理念に基づき、産業づくり、地域づくり、人づくりを実践しています。そして2009年には環境モデル都市の認定を受け、低炭素で活力あふれる環境文化都市・飯田を目指し、先駆的な取組を実践しています。



太陽光市民共同発電の展開

～おひさまパワーを生かして～

市民ファンドを活用し、市内や周辺地域で160箇所を超える公共施設や事業所の屋根を活用して、地域のエネルギー会社が太陽光発電による電気を供給する「太陽光市民共同発電事業」を開拓しています。将来的には市内のあらゆる屋根で太陽光発電を普及させ、地域全体が「おひさま発電所」になることを目指します。



○飯田市立県(かなえ)
ひばは保健園



○保育園での環境教育

木質ペレットの利用拡大

～豊かなもりの資源を生かして～

豊富な森林資源を生かし、小中学校のペレットストーブや公共施設のペレットボイラーを中心に、南信バイオマス協同組合が製造する木質ペレットを利用し、森のエネルギーの普及を推進しています。



○飯田市立南正小学校のペレットストーブ

●飯田市南信濃「かぐらの里」
ペレットボイラー



産業界との連携

～環境と経済の好循環を目指して～

環境ISOをキーワードに活動する「地域ぐるみ環境ISO研究会」を中心に、産業界でも積極的に環境改善活動に取り組んでいます。また三菱電機(株)中津川製作所飯田工場には、2009年12月に太陽電池セル工場が増設され、地域の産業界とも連携しながら環境と経済が好循環するまちづくりを進めています。



●地域ぐるみ環境ISO研究会の
地元高校生への出前講座



○太陽光パネルを生産する
三菱電機中津川製作所飯田工場

飯田市の先進的な取り組み

飯田市環境モデル都市・行動計画概要

2050年

地域全体から排出される温室効果ガスを
2005年対比で**70%**削減

温室効果ガス排出削減目標

2030年

排出の著しい家庭部門からの温室効果ガスを
2005年対比で**40~50%**削減

「おひさま」と「もり」の エネルギーの総合利用への展開

太陽エネルギーの利用促進

太陽光市民共同発電の仕組みや国の補助金、
市の奨励金制度により、太陽光、太陽エネルギーの
利用を促進します。

環境視点からの木材利用と 森林管理の推進

木材の生産から需要までの一貫した需給体制を構築するとともに、木質バイオマスエネルギーとして間伐材等を活用し、森林整備と木材利用を推進します。

タウンエコエネルギー・システムへの構築と
中心市街地における低炭素まちづくりの実践

建築物の省エネ化

地域独自の環境価値を付加した省エネ型の建物の普及と高効率エネルギー機器への転換による低炭素住宅等の普及を促進します。

中心市街地における

タウンエコエネルギー・システムの展開

街区単位で太陽熱、木質ペレットによる面的熱供給を行う「タウンエコエネルギー・システム」を構築し、中心市街地で実証的に導入し他地区へ展開します。

移動手段の低炭素化

車両乗換や公共交通による
低炭素な移動手段の取り組み

電気自動車、電動自転車等、環境にやさしい車両への乗り換えの支援策や利用システムを構築し、移動手段の低炭素化を図るとともに、デマンド型タクシー導入等公共交通利用への転換を図ります。

産業界との連携

地域ぐるみで環境活動した
低炭素型企業活動への取り組み

企業の排出削減を重点評価する等により、地域版環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」の取組を促進し、「地域ぐるみ環境ISO研究会」を母体にして低炭素な企業活動の実践の輪を拡大します。

低炭素社会に向けた 地域全体の意識変革

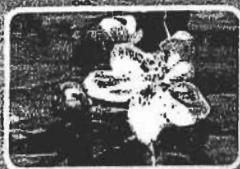
低炭素で活力あふれる地域社会の形成に
むけた市民の意識と人材の確保

低炭素社会基本条例(仮称)により、地域全体で低炭素社会に向けての目標を明確にし、共有化します。
地球温暖化防止ユーディネーターを養成し、市民の意識醸成、低炭素ライフスタイルの実践へと誘導します。

30年後のAさん家族の生活

Aさんの大変な苦労を抱えている方ほど、イマヌエル・アーリヤーは、おもてなしの心で、お手本通りのコーコラティン・アーリヤーとして、市内市外にわたり、Aさんを多くの方々へお届けする所まで、車両が充実してあります。ハラート（バス）に任んでいます。また、人たちは、ヨーロッパが至るところに、ハラート（バス）で、買い物をしており、路線は、山の高嶺地帯から、川の谷底地帯まで、幅広く、安全な生活を送っています。ヨーロッパ（バス）の高齢者は、高齢者向けに、又、女性性器の医療専門や、自刺かむら、また、デマンド交通システムで、移動が、より容易にできます。

Aさんも、EDO-Xになるまで、地獄高吸に防止コーティングアーティストとして活動しています。昔はヘンタヅルルフレーマイスターの資格を持ち、地元の農園や生産者が取り扱うフルーツマイノーン栽培の運営にも力を加していました。その一環として、コープラティックハウスの共同利用の農場では、或産地の木材による木製カゴが提供されており、コープマイレージの会員による生産者からの温室別果カゴ販売に取り組んでいます。そして何より、共同で農業をして共同で暮らすことで、夫婦や大農者同士のコミュニケーションがどんどん密になれば、生産生産と暮らします。

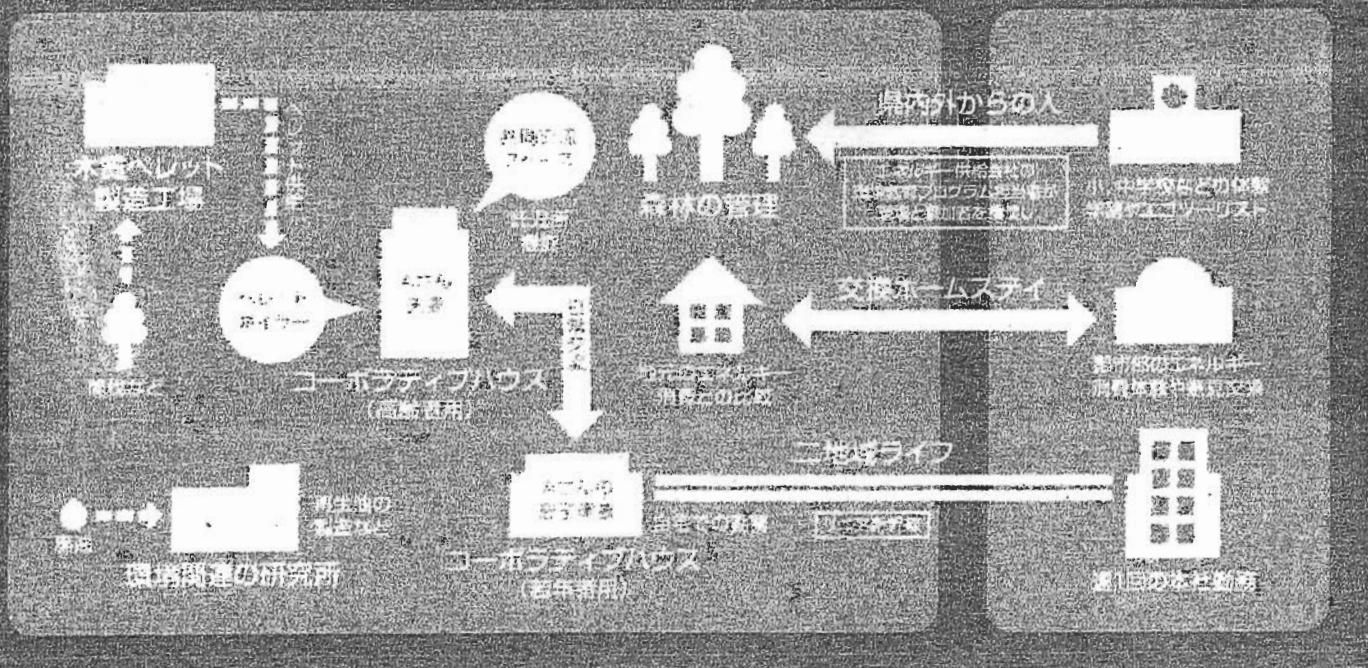


Aさん大手の私鉄は、別会議室で「ヨーロッパハウス」を開設し、都市住民が楽しめる東洋文化の発信拠点を開設する研究会に所属しています。西日本はリニア中央新幹線をめぐる議論で注目を集めています。在宅を中心とした新しい働き方を、地域活性化に向けた温室効果ガスの削減に向けて取り組んでいます。息子の進路、大学時代のプログラミングで学んだ技術を活用して、多くのIT技術者の高さと実力を磨き上げ、地域のITスキル・人材にターンツーの求めて、教育部門に新規として
環境教育プログラムの構築を担当しており、年間10万人規模のエコツーリスト証提供し、環境
の体験学習を通して都市住民に低炭素ライフスタイルを提案しています。



海子大介の子供は3人。中学校に通う長男は、近1回は石垣島関連の研究室でハイオスマ農連の研究開発のインターフィルフに参加してしまった。小学校に通う長女は、カーポン・オフィセッジの父流を進める直島・恩田市のプログラムで、交流事業部を体験する機会が充実しています。生まれたばかりの二男は、Aさん夫婦のコーホーラティハイツで他の居住者の孫たちと共に育てられ、元気働きする環境が充実しています。

今更ながら散策するAさんは、りんご並木を歩くたびに街のライティングを感じます。



「環境文化都市」……今後更にEco-Cityといわれる長期計画を実現して発展する都市像である「美しい住居環境と多様な豊かな文化を活かしながら、市民・事業者・行政が「多様性主体の創造的な参加と行動」によって築く、人や自然と調和する社会ある（新潟市）（2007年3月23日登記）

・西半体を相対系社会に移行していくために、温室効果ガスの大削減など高い目標を掲げて先進的取り組みでチャレンジするモデル都市として政府から選定された「Eの自治体」(2009年1月23日選定)

③文化政策と都市：歴史文化都市の認定条件として毎日次々と本州に登場する「古都」と名づけられる怪奇言葉が生まれ、伝統的で豊かな地域文化が生き残りながら、いかに進歩していくか。

4. 定住自立園構想
四ヶ町の中心市と周辺町村が一対一の協定を締結して、市に認証した機能を重視したネットワークの考え方で役割分担など、それぞれの特長を生かし、テーマごとの実向担当を進め、自立して生産活動を構築していく。その若者たちが在りし、多様な人財が将来にわたって行き、活力に溌々めらしく、元気をもぎあい、安らぎとして暮らせんとするためのモデル構造を目指す。

卷之三十一

TE 0266-22-4536 FAX 0266-22-4576

E-mail : sakusan@20city.lcc.tig.jp

DRIVE SITE : <http://www.cityticle.jp/>

Reported on 10-20-2016 by MICHIGAN DEPT OF PRISONERS RIGHTS. All rights reserved.